

京都市教育委員会

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業 (病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業) 事業成果報告 京都市教育委員会

1. 背景・目的

現 状

○市内の病院に小・中学校の児童生徒が長期間入院することになった場合は、転籍のうえ**特別支援学校（病弱）の桃陽総合支援学校が教育保障を実施。**

○病院や自宅で療養しながら学習を続ける児童生徒は、**治療や体調等で、やむを得ず授業を欠席することがある。**また、対面授業や同時双方向型授業配信だけでは教育機会の保障として十分でない場合があり、**オンデマンド型授業が必要となる場合がある。**

○厳しい治療を受けながら**意欲的に学習を続けることに難しさを感じている児童生徒がいる。**

課 題

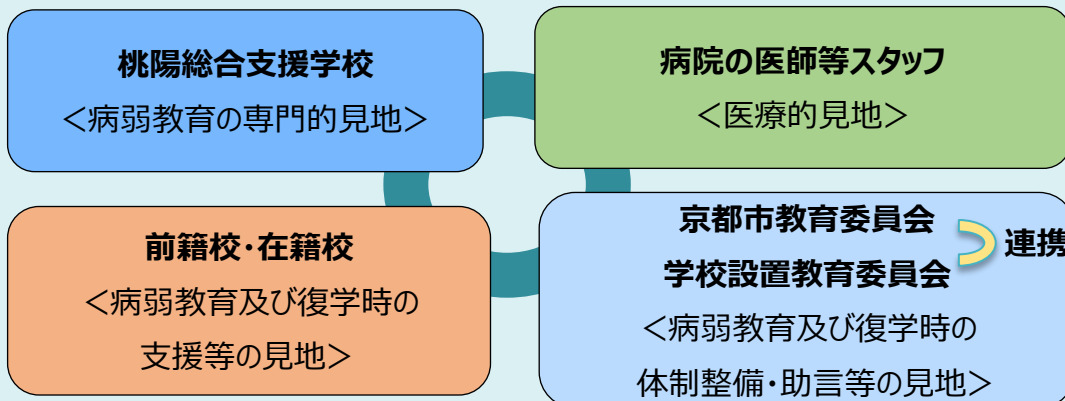
- 効果的なオンデマンド型授業配信の組み入れ方や進め方、授業改善**
- 指導者の負担軽減の方法を工夫した**持続可能なオンデマンド型の授業の在り方**

目 的

- 児童生徒が主体的に学習に向かうための支援方法の検討。
- オンデマンドの視点を取り入れた授業改善**
- 児童生徒の教育的ニーズに合わせながら、教員の負担軽減の方法を工夫した、**持続可能なオンデマンド型授業配信の在り方の検討。**

2. 実施体制

病院や自宅で療養中の児童生徒や保護者の教育的ニーズ・学習保障ニーズの把握



・医教連携コーディネーターを中心として、関係教職員が左記関係機関と連絡・調整等実施

・関係者で構成する「病気療養中の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業推進会議」で協議を実施

・桃陽総合、京都市教委関係者は、日常的に取組の進捗状況、課題、課題解決のための方策等について協議を実施

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業 (病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業) 事業成果報告 京都市教育委員会

3. 実施内容及び結果

京都市立桃陽総合支援学校に在籍する小中学生、全教科で実施 (＋入院中支援依頼のあった高校生)

病気療養中の子どもの学びを支える取組

「いつまで入院するのかな?」「病院の中の学校ってどんなところ?」
「ともだちはどうしてるかな?」「やっぱり勉強のこと心配だな」「オンラインって目が疲れる・・・」
「留年になったらいやだな・・・」「退院はうれしいけど、学校のことが心配」



不安を軽減し、学びに向かう気持ちを支える

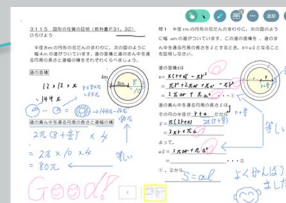
オンデマンド型・同時双方向型の授業の実施⇒授業改善

個別最適な学び

オンデマンド教材を導入した学習
教科の特性に応じた導入により
学習効果を高める

自主学習のための取組

オリジナル教材による併用授業



[放課後学習して提出]

学びを支える

学びに向かう意欲を引き出す取組
分教室紹介・中学校体験学習
リモートオープンキャンパス

人や社会とつながる取組

リモート交流 (行事参加・復学)
学校探検



持続可能なオンデマンド型の授業の在り方検討

校内での成果共有

学習内容の精選

・桃陽スタンダードの作成

授業力の向上

・配信ハンドブック更新
・学習会

継続するために

桃陽ポータルサイト立ち上げ

・教材や動画、復学に向けた
ステップを共有

端末・タッチパネルディスプレイ(指導者側)・タッチペン・モバイルプリンターを使用

・リモートの交流で、学校に戻りたい気持ちが強くなった。
・入院中でも、学校訪問したような気持ちになった。参考になった。
・学校の様子を見て、行きたい気持ちが強くなった。

オンデマンド学習

・体調に合わせて学習できる
・見直しができる
・孤立感
・リアルタイムの質問が難しい
・出席コメントを求められる



・学校の様子がよくわかる
・出席確認してもらいやすい
・先生や友達の声は励みになる
・治療や体調で受けられないと欠席になる
・一度抜けると、ついていきにくい



同時双方向学習



[桃陽ポータルサイト]

学習スタイルの特性を生かして、
退院・転院・復学など新しいステップに向かう気持ちを支える

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告 京都市教育委員会

入院初期

寛解期

学習スタイル

不調期

安定期

移行期

思いを受け止めることを大切にし
て、教科学習を進める

教科学習 + 病気の理解を進める

教科学習 + 復学への不安に
寄り添い期待を高める

学びに向か
う気持ちを
育てる段階

対面を中心とした
学習

同時双方向は、
一緒に学ぶ仲間が
いることを知る機会

対面により、児童生徒の反応を確認し
ながら学習を進める
「やりたいこと」から取り組んでいけるよ
うにする

分教室紹介

場所・人・何をするとところかが
わかることで不安軽減

行事交流・集会

対面での学習を継続しながら、
リモート学習の機会も設定。行事
や集会、リモート遠足など親しみ
やすいものから参加、音楽や体育
など皆で取り組むことで、集団で
学ぶ時間も保障

同時双方向型学習で分かりにく
かった部分は、オンデマンドの動画
で確認

併用学習では、治療や体調不
良等で欠席や途中退室があった
時 放課後や後日の学び直しが
できるよう、教材や提示の仕方を
工夫

学校探検

児童生徒の初登校に向け、学
校の様子を画像で確認し、教室
の場所や約束事を知る

復学
に
向
け
た
交
流

中学校体験（小6）
リモートオープンキャンパス（中3）

入院中の体験・見学をオンデマ
ンドで補完

自分で
課題に取り
組もうとす
る段階

対面・同時双方
向・オンデマンド併
用の学習

オンデマンドでの学び
方を知る
オンデマンドをポイント
の理解に役立てる

初回の授業は対面になるように
するか、または、受け手側に教員
がサポートに入る

前籍校との違いに戸惑う様子が
あれば、丁寧に聞き取る

体験者からのメッセージ

入院中の困り・不安や心配は
誰にでもあることを提示
⇒孤独感・不安の軽減

自主学習
ができる
段階

同時双方向・オン
デマンド併用の学
習

仲間を意識し、対
話できる機会と自分
の体調に合わせて学
習する機会の両方を
保障

（高校生）

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告 京都市教育委員会

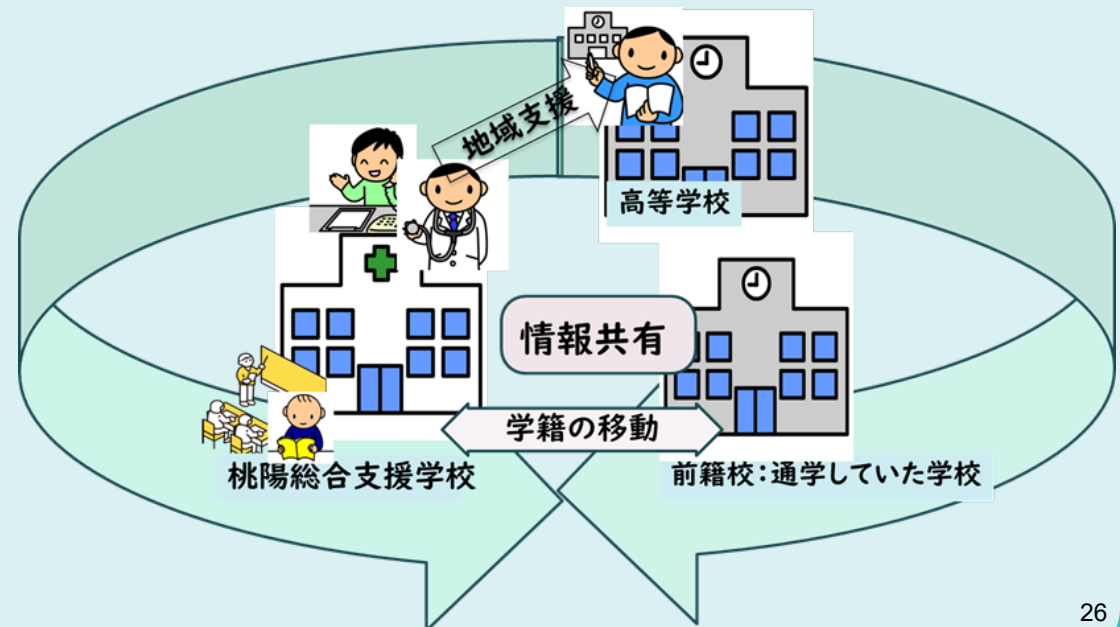
4. 成果・課題

【 成果 】

- ・ オンデマンド・同時双方向型との併用 → 個に応じた学習を進めるうえで、選択肢が増えた
- ・ 「桃陽スタンダード」（桃陽指導計画）（仮称）」作成 → 病弱児の教育に合わせた各教科の指導内容精選
- ・ オンデマンドの学習状況・評価 → 提出物（ICT活用）＋聞き取り → フィードバックして次の学びへ
- ・ 桃陽ポータルサイトで教材・動画・情報の共有 → 教職員負担軽減 → 持続可能な取組へ
- ・ 分教室紹介 → 映像を見て不安軽減。出演した子どもは、自身の生活等を振り返る機会に。
- ・ 体験者（高校生）からのメッセージ → 映像を見て、孤独感、不安の軽減

＜病院との連携＞

- ・ 分教室と病棟スタッフの定例会合に医教連携コーディネーターが出席
 - 連絡体制が構築できた
 - 定期テスト受験場所、学習場所の配慮につながった
- ・ 院内のコーディネーターと医教連携コーディネーターの連携
 - 遠隔授業、評価につながるテスト・課題にスムーズに取り組めた



4. 成果・課題

【 課題 】

- ・ 桃陽スタダート[®]（桃陽指導計画）（仮称）の自立活動の指導内容や教材の充実
↓
個々の実情に応じた復学（転院）支援の充実

【 今後の取組の方向性 】

- ・ 子どもの不安や気持ちを受け止めながら、学びに向かう気持ちを支える取組の充実
- ・ 子どもの状況や段階・時期に応じた取組の充実
- ・ 病院とのさらなる連携

